

捕手の要求が試合結果に及ぼす影響についての研究 A study of influence that the catcher's demand exerts on result of past games

1K07B142-5

指導教員 主査 磯 繁雄 先生

土田 洋輔

副査 田内 健二 先生

【緒言】

野球のゲームの勝敗を決める要因として投手の投球が大きく関係していると言える。つまりピッチャーがどのようなボールを選択し、どのようなコースにそのボールを投球しているのかを見ていくことによって、ゲームの中におけるバッターとの駆け引きや、ゲームの状況を読み取ることができると考えられる。本研究では一つの打席で、バッターが三振もしくは凡打となったボール、またヒットになったボールつまり、バッターにとってその打席の最後となったボールを取り上げ、そのボールがキャッチャーの要求通りのボールだったのかまたは要求通りのボールではなかったのかを検証し、キャッチャーのリードが本当にバッターを打ち取るための最良の選択となっているのかについて検証していきたい。また、戦略性を持ったプレーの重要性の増加、様々な要素が絡み合った状況下で配球を組み立てなければならないという複雑性からキャッチャーの存在が試合結果にどのように作用するのかについても同時に検証していきたい。

【方法】

本研究では2010年東京六大学野球春季、及び秋季リーグ戦における早稲田大学の試合、計23試合をビデオ録画して分析した。投球についてピッチャーの名前、ランナーの有無、キャッチャーの要求通りかそうでなかったか、球種、投球の結果（ヒット、凡打、三振）、ゲームの勝敗について記録した。

【結果及び考察】

春季と秋季ともにキャッチャーの要求通りだった投球の割合が45%程度であったことから、競技レベルが上がることによってピッチャーの制球力も向上していた。ヒットの項目では要求通りではなかった場合のヒットの割合が、要求通りだった場合の約倍近い数値を示していることから、バッターを抑えるためにはキャッチャーの要求通りのボールを投げるということが求められるということが示された。三振の項目では、春季と秋季を通して要求通りの場合でも要求と違った場合でも勝った試合のほうが高い数値を示していることから、勝った試合のほうがより多く三振を取っていると示された。そして秋季の方がキャッチャーの要求通りの投球の場合2%ヒットを打たれる確率が低くなっていた。したがってわずかではあるが、秋季の方がキャッチャーのリードがバ

ッターを抑えるために有効なものとなっていた。春季と秋季を比較するとバッターがスイングしている場合の制球力に差異は見られないが防御率の点で0.72、秋季の方が高くなっている。これは①スイングしないボール（四死球）の増加、②ピッチャーの球威の減少、③バッターの経験、などの要素が関係していると思われる。

【まとめ】

春季において勝った試合でキャッチャーの要求通りの投球となっていた割合が44%、負けた試合でキャッチャーの要求通りの投球となっていた割合が48%であり、キャッチャーの要求通りの投球の割合と試合結果には相関が見られなかったが、秋季において勝った試合でキャッチャーの要求通りの投球となっていた割合は49%、負けた試合で要求通りの投球となっていた割合が45%となり、秋季においては春季と異なりキャッチャーの要求通りの投球の割合と試合結果には相関が見られた。

春季においては勝った試合よりも負けた試合のほうが要求と違った投球での凡打の割合が低いが、秋季においては勝った試合よりも負けた試合のほうが要求と違った投球での凡打の割合が高くなっている。したがってリーグ戦全体を通してか結果が秋季の方が良かったということを考えれば凡打という結果ではなくその凡打への投球が要求通りだったかという過程が重要となるという可能性が示唆された。以降のことを踏まえ春季と秋季を比較した結果、キャッチャーの要求が試合結果に及ぼす影響の大きさが示唆された。このことから春季と秋季でキャッチャーが異なっていたということを見ると、サインを出すキャッチャーの重要性が示唆される結果となった。

図1. 1年を通した全投球の割合

